

# コロニー中央病院だより

## 中央病院をめぐる再編計画の現状について

中央病院長 飯尾 賢治

本年度も院長の任にあたらせていただきますので、よろしくお願いたします。  
コロニーの再編計画が平成19年3月に策定されてから既に5年あまりが経過し、中央病院をめぐる医療情勢はその間に大きく変化をとげました。



- 昨年11月に策定された愛知県地域医療再生計画では、当院の役割などが以下のように謳われています。すなわち、「障害児医療対策」の項目の中で、
- 発達障害医療の拠点施設として、また、小児医療及び周産期医療の後方支援を担う施設として、コロニーの整備を行う。
  - 心身障害者コロニーが従来担ってきた知的障害を伴う患者に加え、知的障害を伴わない発達障害の患者も対象とすることを目的として、あいち小児センターとの機能再編(あいち小児センター心療科のコロニーへの統合)を行う。
  - 県内の障害児(者)に対し、様々な診療科による医療の提供を行ってきたところであるが、この特性を更に生かし、小児神経科(筋ジストロフィー、脳性まひなど)や障害児(者)に対する外科、整形外科、リハビリテーション科、歯科などの医療機能、更には臨床遺伝専門医による遺伝子診断、カウンセリングなどの診療機能を充実させることにより、障害児(者)医療の拠点としての整備を進める。
  - 小児医療及び周産期医療の後方支援のため、県内のNICUにおける長期入院患者で在宅での療養を希望する患者を心身障害者コロニーに整備する在宅支援病床で受け入れ、コロニーが今までの在宅支援事業で蓄積したノウハウを生かして在宅生活への円滑な移行への働きかけを行うことにより、県全体の周産期医療システムの円滑な運営に貢献する。

県は初段事業として、中央病院、こぼと学園、発達障害研究所の3施設等而建て替え、「愛知県療育医療総合センター(仮称)」を設置するために、本年度の当初予算に基本設計費約8千4百万円を計上しました。今後、この計画が順調に進めば、来年度末にこぼと学園の建設が着工となり、その後数年以内に、中央病院の新築がなるものと思われれます。コロニーに関係する皆さまの絶大なるご理解ならびにご支援をお願いいたします。

### ■ 中央病院の理念と基本方針

私たちは成長や発達に支援を必要とする方々に、より良い医療を提供するように努めます。

- 1 胎児期から成人までを対象とし、患者さんの目線に立ったやさしく安心できる医療を行います。
- 2 心とからだの成長・発達に影響する子どもの疾患を総合的に診断し良質な医療を専門的に提供します。
- 3 患者さんが自立した生活ができるよう、在宅支援や地域との医療連携を推進します。
- 4 成長・発達に影響する病気の原因追究および治療法の開発を発達障害研究所やこぼと学園と協力して進めます。

## 児童精神科常勤 小野先生着任



### ●児童精神科 小野 真樹 先生

- ・出身地：埼玉県
- ・前任機関：愛知県立城山病院
- ・趣味・特技：音楽を聴いたり、楽器の演奏が好きです。また、最近はガーデニングにはまっていて野菜を育てたり、石窯を手作りしたりしています。
- ・コロニーの印象：建物は少し古いけれど、自然に囲まれたよい環境だと思います。そして、職員さんや患者さんたちと接する中で、とても歴史を感じる病院だと思いました。激動の時代にあって今後は医療や福祉の仕組みもいろいろ変わるのでしょうが、コロニーの長い歴史から学ぶものも多くあるのではないかと感じています。
- ・今後の抱負：もともとは小児科医でしたが、今は児童精神科医です。前任地では精神科でした。最近、時々自分でも何科か分からなくなりますが、まあ、あまり難しく考えずに楽しく診療できたらいいなと思っています。

## 検査部長に 島田先生 (研究所兼務)



### ●中央検査部長 島田 厚良 先生

- ・出身地：兵庫県
- ・前任機関：コロニー発達障害研究所
- ・趣味・特技：犬(ジャックラッセルテリア)の散歩です。  
温厚ですが、森林では俄然早足になるので、良い運動になります。定光寺周辺の東海自然歩道を駆け、小道を見つけて楽しみます。
- ・コロニーの印象：平成10年に研究所に赴任し、病理学研究を続けてきました。病理診断や剖検を通じて中央病院の皆さんとはお付き合いがありましたが、臨床の現場へ来てみると、研究所とは違う面が多く「新人」の気持ちです。
- ・今後の抱負：研究所神経病理研究室、こぼと学園検査部を兼務し、3施設を行き来する毎日です。施設間連携に貢献したいと考えています。

## 児童精神科病棟(4西)を改修

### ～ 行動制限の最小化めざし、個室増設 ～

西4病棟は児童精神科病棟ですが、入院患者さんは概ね成人で重度、または最重度の精神発達遅滞の自閉症患者さんです。症状は、自傷・他害・激しいこだわり・物壊し・多動・著しい騒がしさなどの行動障害があり、パニックや粗暴さで処遇困難な状態になる恐れが常にあります。そのため、パニックに至らないように病室でクールダウンさせたり、場合によってはやむを得ず身体拘束や隔離など、様々な刺激を軽減するためには個室が必要となります。

こうした状況に現状の病棟では対応できなくなったため、本年3月長年の希望であった個室増設の改修工事が行われ、前室を含め個室が8室、2床部屋が2室、大部屋が2室となりました。



個室を8室に増設した4西病棟

4月からは、工事期間中待機していただいていた患者さんや、他病院からの新患の入院もあり、個室は常に全室稼動しています。しかし、構造や部屋の強度に差があることから、患者さんの状態に合わせて転室をしていただくこともあります。変化が苦手な自閉症の患者さんが落ち着かない状態にならないよう配慮して、傷害や器物破損の事故防止に努めています。今後は、個室を有効に使用し、行動制限をさらに最小化できるよう努めたいと考えています。

今回から、中央病院の5病棟にどんな患者さんが、どのような治療を受けながら入院生活を送っているか、各病棟の看護師がリレーして紹介していきます。

## 乳児から大人まで様々な患者さんに対応

こんにちは。病棟紹介、一番バッテリーの西5階病棟です。

西5階病棟は整形外科を中心とした病棟です。ベビーから大人まで様々な患者さんが入院されています。整形外科の手術やボトックス注射、リハビリ目的で入院する方が多く、手術前後の看護が安全に実践できるよう配慮し、効果的な訓練が行えるよう計画しています。

中でも学齢期の患者さんは、病院内にある学校に通いながら入院生活を送っています。学校が終わった後も、整形外科の患者さんは、一息ついて今度はリハビリ室に向かいます。リハビリの担当の先生とみっちり訓練をした後も、患者さんによっては病棟で「自主トレーニング」というメニューをこなさなければならぬ患者さんがいます。

「もうつかれた!」「ゲームしたい!」「テレビ見る!」と言いながらなかなか訓練のすすまない患者さんもいます。「ほらーいっしょにやるよ」「ここまで来てー」とうまく声かけをして、本人のやる気を引き出せるよう働きかけています。こども達には遊びも重要な生活要素と考え、発達に応じた援助を心がけるよう、私たち看護師は悪戦苦闘しながら明るく、がんばっています。



## NST 委員会

栄養状態が不良であれば、感染症や褥瘡、パワー不足などにより患者さんのQOLは大きく低下します。それに加え嘔吐や下痢、浮腫などの症状に苦しむことも多くなります。NST (Nutrition Support team) とは、職種の壁を超え栄養面でのサポートを実施するチームのことで、当院では栄養士、看護師、歯科衛生士、薬剤師、臨床検査技師、ハビリ、医師によって構成されています。

活動は月1回の患者回診と委員会に加え、年3-4回の勉強会と広報活動を行っています。目標は、院内で(主に入院)栄養の問題による病状や合併症で困る患者さんがいなくなるように!です。このことが結果的には治療効果や医療経済に貢献し、患者さんとその家族がハッピーになれると考えています。

具体的には入院患者さんにつき提出される「栄養管理計画書」と血液検査によって、介入が必要な患者さんの背景や摂食状況、治療経過などにつ

き検討し回診を行っています。基本的にはその患者さんが持っている能力を最大限に生かせるように、また食事や注入の内容と量だけでなくハビリなどを通して全体のADLを向上させることや、経口されていない方の口腔ケアなど(快感だけでなく肺炎の予防や唾液分泌などにもよい影響を与えます)に関しても総合的に考えています。また昨年からはNSTの取り組みとしてミキサー食の注入を薦めています。栄養剤の注入に比べやや手間はかかりますが、便通の改善や微量元素などの摂取が可能なることに加え、家族と同じ「食事」をしていると比較的好評です。また、お肌の状態も良くなるようです。ミキサー食以外にも何かご相談があれば各病棟各部門のNST委員までご相談ください。(NST委員長 毛利純子)



NST委員全員が、栄養面で問題のある入院患者さんを回診し、改善策を検討します。



小児神経科医 丸山 幸一

研修医 2 年目の春、小児科医として初めて受け持った患者さんの一人が、肺炎で入院した重症心身障害児でした。状態はどんどん悪化し、気管チューブから肺出血を吹き出しながら、数日の経過で亡くなりました。寝たきりで意思表示もない子でしたが、家族にとっても愛されていたことが強く印象に残りました。

その後、新生児集中治療室 (NICU) で超音波や脳波、MRI など早期産児や仮死出生児の脳障害を予測する研究を手伝いました。しかしいくら予測精度が上がっても、残ってしまった障害に対してはなすすべがありませんでした。ここで多くの医師は脳障害の予防・治療のための研究に向かうのですが、私は障害そのものの理解に興味を持つようになりました。

小児科医を続けていると、出産前後の脳障害だけでなく、先天異常、てんかん発作、急性脳症や脳炎の後遺症、進行性の病氣、虐待など様々な原因で障害をもったお子さんに接します。症状はどういうものか、なぜそうなったのか、治療できるのか、リハビリでどこまで改善するのか、将来はどうなるのか、といった質問に十分な回答やアドバイスができず、いつかは障害児に対する医療を勉強しようと考えていました。

中央病院に赴任して、患者さんとご家族、看護師や療法士をはじめとするスタッフの方々から多くのことを学んでいます。そして得たものを患者さんのもとより、広く障害児にかかわる方々に還元していけるよう取り組んでいきたいと思えます。

～問診票～

- 出身地はどこですか？  
生まれは千葉県、小学生のとき愛知県に転居しました。
- コロニー在籍何年ですか？  
4 年目になります。
- 趣味は？  
とりたててありませんが電車通勤にしてから本を読むようになりました。
- 血液型は？  
A 型。
- 猫と犬どっちが好きですか？  
動物は苦手ですが、飼うとしたら小さめの犬がいいです。
- マイブームは？  
最近筋トレを始めました。
- 最近、気になるニュースは？  
iPS 細胞の臨床応用について。
- コロニーで好きな所は？  
進入路や外周路の緑です。  
冬、雨が降って養楽荘側にきれいな虹がかかった光景。

広汎性発達障害を学ぶ会

中央病院では、当院で初めて広汎性発達障害 (自閉症、アスペルガー症候群) の診断をうけたお子さんのご両親を対象に、左記のように六回の学習会を企画しています。広汎性発達障害の特徴や関わり方のコツなどについて、コロニーの各種の専門家が、お話しします。なお、この講座はコロニー研究所との共同研究の一環として行われますので、アンケートにつきましてもご協力をお願いいたします。

参加を希望される方は、精神科主治医またはハビリ棟二階心理担当者へ、六月二十二日 (金) までにお申し込み下さい。ただし、お申し込みいただけるとは六回全てに参加できる方に限らせていただきます。

問い合わせ：〇五六八八八〇八一 (三二八二)

日 程	内 容	担当者
7 月 11 日	広汎性発達障害とは	心理士
7 月 23 日	社会的行動の発達促進	心理士
8 月 13 日	コミュニケーションスキルの獲得支援	言語聴覚士
8 月 27 日	運動・感覚の話	作業療法士
9 月 3 日	法律と行政、教育サービス	指導相談員
10 月 1 日	将来のイメージ	医師

時間：10 時～11 時半 定員：10 名  
会場：コロニー発達障害研究所 1 F セミナー室